

論說

2022.10.1

検証して対策に生かせ

コロナ「第7波」

新型コロナウイルス感染症の流行「第7波」がついで日本を直撃する。たゞ、感染者数増加の原因で、政府の対策が後手に回りだと指摘せざるを得ない。いたゞ、たゞの対策の遅延性を検証し、「第7波」上に備える必要がある。

豊田外堀議院は、十日から水際対策を改めて緩和し、海外との往来を積極的に奨励する方針だ。新規感染者の把握手法も9月下旬から簡素化された。

とにかくすれど、感染者の数増加は確実とされる。感染症対策は社会経済活動への影響を最小限に抑えねばならない。そのためには「第7波」の対策検証が欠かせない。

昨年末に確認されたオミクロン株の感染は、これまでにないほど多く見えた。重症化率は低いとはいいえ、今年7月から約三カ月間の死者数は「四千人余り」と急増する感染者に帰属外では通じて、検査センターも不足した。一方で、検査センターが有り、密接者を以降から指摘されてきたにもかかわらず、密接者の特徴に合わせた医療施設への転換は「第7波」でも進れた。

懸念されるのは、専門家の意見を参考していよいよ「第7波」が本格的に対策を講じるには至らない政

府の姿勢である。

専門的な知識を講じるには専門家の知見が欠かせないが、専門家がコロナ対策分科会の開催を求めて、政府は応じていなかった。社会経済活動を犠牲にする本音の、感染症対策を求める専門家の意見は聞きたいなかったのか。

やむを得ず専門家が有志で検討対策を提議する場面が続いた。分科会の属県改め岐阜が政府の検討に不満を表明するやうな事態は極めて異常だ。

政府と専門家との連携不足は度々問題となりてきた。政府が専門家の反対をせず、対策を進めたかった。専門家の意見は尊重されず、専門家が有志で検討対策を取つ取つめた。

われいは政府は、検証から導かれ、たたかう対策を立てるべきだ。命と健康を守るために検証求め、命と健康を守るために検証を行なはなければならない。